



主張するセルフ・アドボケートたち

No.27

アドボケート (advocate) とは、障害者の権利擁護のための支援・擁護・代弁する人の意味。この企画では、当事者が自ら、自分の言葉で、今の生活についての思いを発信します。

2019年11月16日に行われた第2回日本ダウン症会議でのご本人発表から、内容を抜粋して掲載します。

ありのまま

村上有香 (19歳) 兵庫県

みなさま、こんにちは。村上有香と申します。私は地域の小学校から支援学校の中学部にすすみ、現在、『おもいやりプラスワン』という事業所に通っています。自立訓練のジョブステップ (株式会社 OMOIYARI+ ONE Job Step) というクラスで学んでいます。

ジョブステップでは、パソコン学習・生活訓練・ソーシャルスキルトレーニング・言葉の勉強・作業・クリーンサービス・金銭管理などのカリキュラムがあります。

私はスタッフさんに頼まれて、作業などを教えてあげることがあります。教えるのが上手とほめられます。

私は、月に1~2回、ショートステイ (J-CLUB) に行っています。ジョブステップから徒歩5分ぐらいの所にある一軒家です。

ジョブステップとショートステイで、将来の自立に向けて学んでいます。

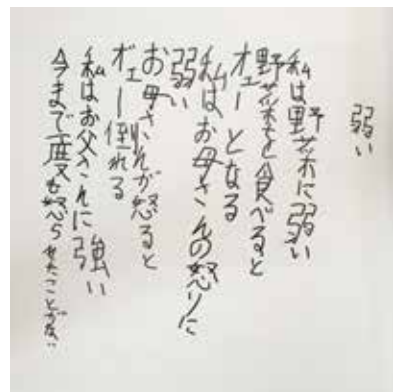
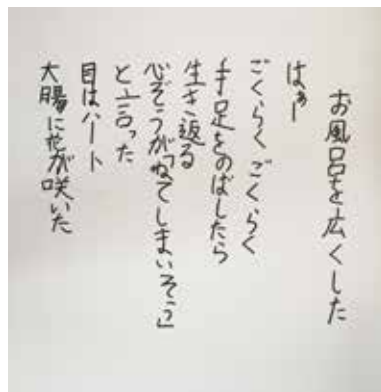
毎日、すごく楽しいです。話ができる友達がいって楽しいです。でも、自立はしたくないです。自立して事件に巻き込まれ、両親を悲しませたくないから、家にいたいです。



自立訓練は二年間と決まっているので、私は来年、ジョブステップを卒業します。卒業後は、母と一緒に『カードショップ』を始めようと思って、今、準備をしています。ギフトカードの制作・販売、ワークショップをやると思っています。

私は『ちょっと算数が分からない女』です。いつから知的障害になったのかな?と思います。数字がごっちゃになってこんがらがり、何がこうで、あれがこうか、さっぱり分かりません。

でも、私には、人には見えない物が見えます。人の心の中の字が読めます。相手がどん



詩を書く理由

私は小学校4年生の時に詩を書き始めました。私が詩を書く理由は、地球のみんなを笑顔にするためです。みんなの笑顔が見たいんです。

どちらも支援学校中学部2年生のときの詩

な思いをしているのかもすぐに分かります。父の心の中には「有香ちゃんがいるから仕事を頑張れる」と書いてあります。母の心の中には「有香ちゃんが生まれて良かった」と書いてあります。

だから、私はダウン症でも知的障害でも構いません。ありのままで生きていきます。私は3日後に二十歳になります。二十歳になったら、レディーガガのように派手にお化粧をして、黒いサングラスを頭にかけて、足を組んでビールを飲んで、「クー」って言いたいと思っています。

(村上有香さん作成の原稿より抜粋)

有香さんの感想

人前で話すことができてよかった。
うれしい。超うれしい。またやりたい。

母・喜美子さんの感想

有香は、劣等感に苦しむ日もありましたが、二十歳を前にして、ありのままの自分を肯定できるようになりました。娘の話を聞いて下さる会場の方々の様子を拜見し、当事者の発表ほど人の心に響くものはないと実感しました。これからも『できること』を増やしなが、ユニークな『感性』を失わないように、顔を上げて明るく歩んでほしいと願っています。

※これまで会報に掲載してきたこのコーナーの記事を JDS のホームページですべてご覧いただけます。
トップページ上段「ダウン症のあるお子さんを授かったご家族へ」⇒「主張するセルフ・アドボケートたち」